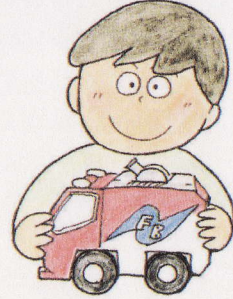


ぼくの家の
ファイアバード1号



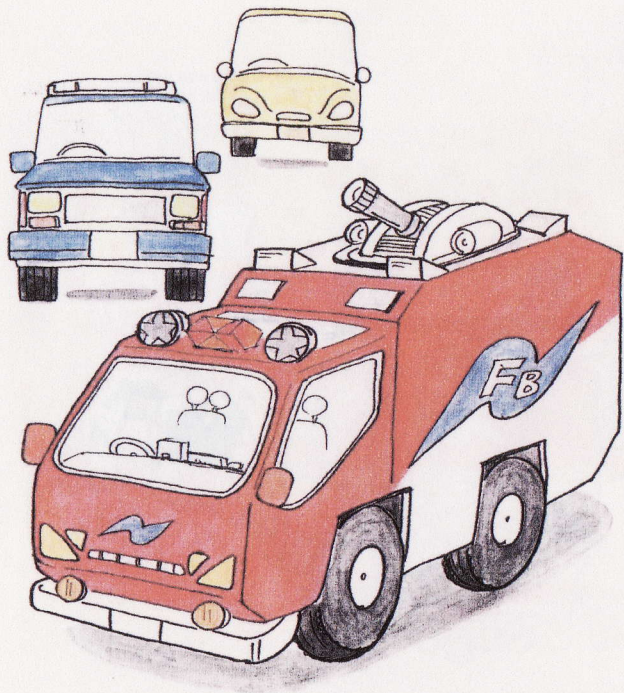


僕の名前は浩一。小学校4年生。長野県N市の郊外に住んでいます。僕の家は山の近くにあり、森や草原がたくさんあって、景色がとてもいいんだ。だから、近くにはペンションとか別荘なんかもたくさんあるよ。

家族は4人。おとうさんとおかあさんとお姉ちゃん。お姉ちゃんは、中学校1年生でちょっとうるさい。だけど、仲はいいよ。

おとうさんは、コンピューターのソフトを作っている。前は東京のコンピューター会社に勤めていたんだけど、僕が小さい時にこっちに住むことにしたんだって。東京にいなくてもオンラインで仕事ができるから、どこに住んでいてもおんなじらしいんだ。「ザイタクキム」っていうんだよ。

こっちにいると、おとうさんの大好きな山登りとスキーと釣りがいつでもできるから、もう東京に戻る気はないって言うてる。



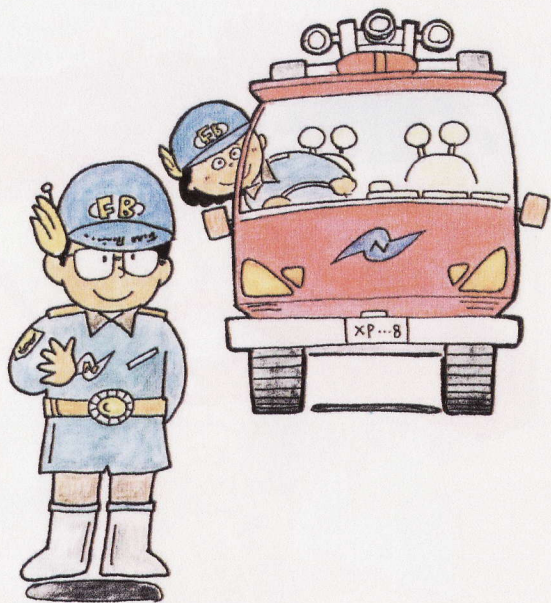
僕の家には車が3台ある。1台は4WDのRV車で、だれの家にもあるふつうの車。山やスキーにはこれで行くんだ。もう1台はおかあさんの軽自動車。ふつうの家はだいたいこの2台なんだけど、ほくの家には、そのほかにはほくの
だぁい好きなかっこいい車がもう1台あるんだ。

それが、ファイアバード1号。でも、この車は、本当は ほくんちのものじゃなくて、市がただで貸してくれてるんだ。ファイアバード1号って名前もかっこいいけど、スタイルもすごいんだ。屋根の上に放水砲とサイレンがのっていて、色は白と赤の2色。ツートンカラーって言うんだって。

2人乗りで、後ろには水タンクがついている。車体はぶ厚い鉄板でできていて、タイヤが大きくて運転席の位置が高いから、これに乗ると自分が強くなったみたいなきががするんだ。

運転席もかっこいいよ。無線テレビ電話と放水砲のコントロールパネルがついているんだ。一人でも使えるけど、二人で乗って、一人は運転、もう一人が放水砲の操作をするのが一番いいらしい。そうそう、この車、電気で走るんだよ。

なんでそんなすごい車がほくの家にあるのかって？



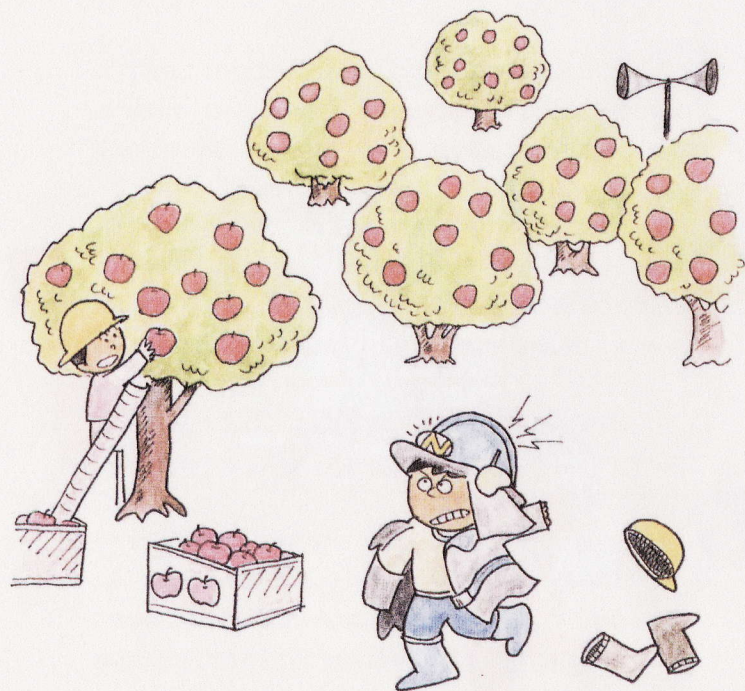
それは、ほくのおとうさんが「ファイアバード隊員」に選ばれているからさエッヘン。

ファイアバード隊員って言うのは、このあたりで火事が起きたとき、この車でかっつけて、放水砲を使って消火する役目を市長さんから頼まれている人のことなんだ。

もちろん、だれでもファイアバード隊員になれるわけじゃないよ。ほくの小学校には4人だけ。トシ君のおとうさんとマリちゃんのおとうさん。それからミキちゃんのおかあさん。N市では、だいたい一つの小学校に4人って決まっているみたい。

ファイアバード隊員になれるのは、子供が小学生か中学生で、仕事をしている場所が小学校の学区内にあることが原則なんだって。

隊員になるのは、おとうさんでもおかあさんでもいいらしいけど、こういうのが好きなのはやっぱり男の人が多みたい。だけど、ミキちゃんのおかあさんはすごいよ。「大型特殊」って免許を持っているし、「B級ライセンス」ってレースにでられる資格も持っているんだって。だからミキちゃんとの「ファイアバード4号」は、大型でタンクの水も15トンも積んでいるんだ。ほくんちの「ファイアバード1号」は3トンなのに。



ファイアバード隊員になりたい人は、子供が小学生の1年生から3年生くらいの時に応募して、5年から10年隊員をやって、下の子供が中学校を卒業する頃に次の人と交代するのが理想らしいんだ。だけど、地域によって希望者が多い所と少ない所があるので、そうきちんとやっているわけではないみたい。

ほくの住んでいるあたりはペンションなんかも多いから、おとうさんが家にいる人が多いから、だからファイアバード隊員の募集があると応募者が、多くて毎回競争になるんだ。ほくのおとうさんは、アマチュア無線とスキーのインストラクターの資格を持っていたのと山岳救助隊にも入っているんで選ばれたらしいよ。

一度選ばれたら、ほくが中学校を卒業するまではファイアバード隊員でいれるんだって。

「消防団」って言うのもあるよ。トシ君のおとうさんはファイアバード隊員だけど、消防団にも入ってるんだって。トシ君の家はずっと前からここに住んでいてリンゴ農園をやっているんだ。「消防団に入って、村を守るのが本当の男だ」ってトシ君のおとうさんはいつも言ってる。

うちのおとうさんも「消防団に入らないか」ってトシ君のおとうさんからさそわれているらしいけど、ファイアバード隊員と山岳救助隊員だけでもけっこう大変だから、どうしようか考えているらしい。

ファイアバード隊員は、応募者が多くて選ばれるのがたいへんなんだけど、消防団員の方は若い人がなりたがらないんだって。トシ君のおとうさんなんか一番若いんだって言ってた。ここに前から住んでいた人たちでも、消防団はいやだって言う人が多いらしい。マリちゃんのおとうさんなんかもそうだよ。トシ君のおとうさんは、「若い人たちが多くなれば変なところだから、いやだなんて言ってないで消防団に入らなきゃ」って。ときどき二人で言い合いをしている。おとうさんは、「仲良しとおしがギロンしているだけ」って言っているけど。

うちのあたりはまだいいけど、もっと山の方に行くとたいへんらしいよ。消防団員はけっこういるけど、お年寄りばかりなんで、火事になってもホースを持って走れないんだって。

だからそういう所は、けっきょくファイアバード隊がたのみらしいよ。ほくのおじいちゃんくらいの方がファイアバード隊員になっているんだって。なんだかイメージわかないけど、車に乗って放水砲で消火すればいいから、お年寄りでもだいじょうぶなんだって言ってた。

おじいちゃんくらいの年の人でも、若い時にインベーダーゲームっていうのをやっていたから、放水砲のコントロールパネルを使うのなんて簡単なんだって。だけど、インベーダーゲームってほくんちのシューティングゲームに比べるとものすごく幼稚なんだ。あんなんて本当におもしろかったのかなあ。

